

内閣文庫
書第一二七号

青森縣陸奥灣内ノ大湊港ヲ工業港ニ御指定相成度陳情書



青森縣陸奥灣内ノ大湊港ヲ工業港ニ御指定相成度陳情書

『大湊開港ノ議』我カ青森縣大湊カ天下ノ良港トシテ著聞スルコト久シ、曩年海軍水路部長肝付中將閣下ハ大湊ハ軍港トシテ且ツ商港タルヘシト喝破サレ、尋テ日清戰役ヲ經テ、海軍水雷團ヲ置カレ、更ニ日露戰役終了ト共ニ、要港部トシテ儼然、北門ノ重鎮タリシ

明治四十三年大湊要港部司令官上泉閣下カ、軍事國防ハ勿論、世界ノ經濟戰ニ鑑ミラレ、大湊ノ開港ヲ主唱セラレタルノ翌年、海軍當局ハ第三十一議會ニ於テ大湊開港ニ異議ナキ旨言明セラレ、亦歴代司令官閣下ハ之レカ實現ノ爲ニハ御庇蔭ヲ給ハルコト、今日ニ淪ルコトナシ

『東北振興ノ議』東北振興ノ議カ志士論客ニ唱道セラレタル、已ニ久シキ以前ニモアリキ、當時某子爵ヲ會長トセル公會ノ組織ヲ見タルコト若干年、遂ニ其ノ根本方策ニ觸レ得サリシニヤ、解散スルニ至リタリ

『當會社ノ設立』當會社ハ故常務取締役鈴木誠作ノ創意ニ出ツ、全氏ハ舊米澤藩士、明治二十四年帝大政治科出身ノ法學士ナリ、常ニ日本ノ文化カ、西南ニ偏シテ、東北地方カ萎靡振ハス、一國內ニ於テ殆ント半身不隨ノ狀態ニ在ルヲ慨シ、其ノ素因カ明治維新ノ際、地方カ政治の敗者タリシニ在ルモ、一ノ完全ナル開港ヲ有セサルハ最大原因ナリトシ、之レカ實現企畫ヲ意ラサルコト多年、全郷ノ友人上泉閣下カ大湊開港ヲ唱道セラル・ニ及ヒ、痛ク其ノ意ヲ得タルヲ悦ビ、着々實行ヲ畫シ、朝野有力賛同

ノ下、大正七年當會社ノ設立ヲ見タリ、當時工業動力ノ根幹トシテ豫定セル十和田水電三萬キロハ調査ノ便宜上、別個ノ會社タラシムルコト、セリ、必竟東北振興ノ遅々タル所以ノモノ、人爲の施設ノ開却セラレアルニ外ナラス、乃チ大湊カ、天成ノ良港ナリト雖亦是レ人爲ノ施設ヲ要スレハナリ、然リ而シテ時甚利アラス、世界大戰後ノ不景氣襲來ニ加ヘテ、關東大震災ノ打撃トナリ爾來財界甚有利ニ導キ得サリシカ爲、于今豫期計畫ノ十分一ヲナセルニ過キス、乃チ官設大湊鐵道ノ疊通ト相俟テ、新大湊埠頭ヲ建設シ、規模大ナラスト雖、臨港鐵道、倉庫、水道、貯炭場、荷捌場等船車ノ聯絡其他一般の設備ヲ有セリ、已ニ投資セルコト數百萬圓乃チ、海岸ノ一帯及田名部町流域ニ涉リテ、社有地數百町歩ト其他ノ土地トモ垣々タル平野カ見渡ス限リノ廣袤アリ、如何ナル大都市、大工場モ自在ニ建設シ得ヘシ

『工業港トシテノ大湊』近年引續ケル我カ東北冷害ノ大災厄ハ、陸ニ海ニ、實ニ疲弊困憊、阿鼻叫喚ノ聲ニ充テリ、仁慈ナル政府ハ客臘特ニ東北振興調査會ヲ設ケ、本年五月全事務局ヲ置カレ、振興救済ニ係ル積極的施設ヲ講セラレ、其ノ對策ノ一トシテ、我カ青森縣陸奥灣内ニ、一ケノ工業港ヲ設定相成ル哉ニ拜承、然リトセハ、天惠形成ノ港灣ナルト、人爲的施設備ト、附屬地ノ廣大海陸聯絡ノ便ト、工業資源ノ豊富ナルトニ於テ、當大湊ノ外、有資格ノモノナシト思料セリ

『大湊港ニ於ケル工業資源』大湊後背ニ於ケル工業資源ノ豐源ナル、他ニ類例ナシト斷スヘシ、世間之レヲ實見セサルモノ、或ハ大ニ疑念ヲ抱クモノアラシ、彼ノ砂鐵ノ如キ四、五億屯百尺層ヲナセルモノ砂カラス、石灰ト云ヘ、石炭ト云フ、ゴノ三大

資源カ相隣接シテ大集團ヲナセルモノ、天意神秘ノ深旨ト謂フノ外ナシ、而シテ金、銀、銅、硫黃、其他諸種ノ鑛床、全國稀有ノ
樺太森林及各種ノ用材、南北兩洋ノ漁撈事業等、多々自然ノ儘放任セラレアルノ遺憾アリ、之レヲシテ開發センカ工業港ノ威力ヲ
發揮スル易々タルノミト言フヘシ

『陳情ノ要旨』近代ノ世相兎角一小地方ノ情弊ニ捉ハレ、眼ヲ大局高所ニ注カレス、歸スル所、多大ノ勞費ヲ要シテ豫期ノ効
果ヲ擧ゲ得サルモノアラサルナキカ、當大湊ノ天恵ヲ以テ尙今日ニ萎棄セラレアル亦其ノ一例ニアラサルナキカ、從テ今回東北振
興ノ對策トシテハ先ツ從來ノ如キ情弊ヲ排シ、大局高所ノ觀察ヲ下シ、克ク天與ノ深旨ヲ畏ミ、地利其他各般ノ理義ヲ綜合シテ斷
按可然歟、殊ニ當會社ハ營利事業ナリト謂ヒ得ヘクモ、モト是レ東北振興ヲ畫セル公益的見地ニ出ツ、故ニ國家公共ノ施設ニ對シテ
ハ双手贊意ヲ捧ケテ善處ヲ冀フモノニ外ナラス何卒當大湊港ヲ工業港ニ御指定可然モノト確信シ、僭越冒瀆ヲ顧ミス謹テ陳情仕候
尙工業地帶タルヘキ區域ハ要港第三區並要港地帶第三區外ニ屬シテ軍事上支障無之ト存候

敬具

昭和十年八月廿一日

青森縣大湊

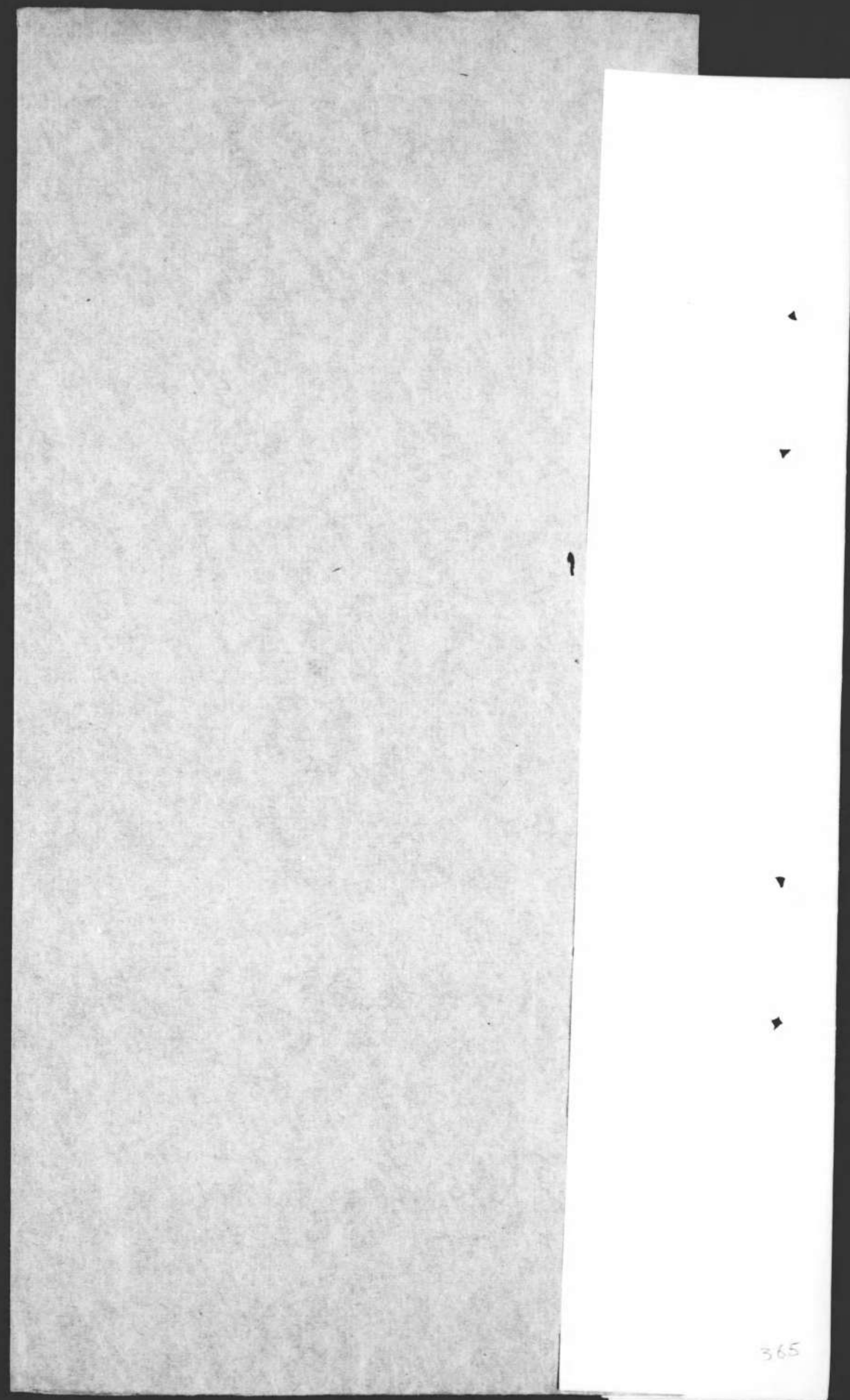
大湊興業株式會社

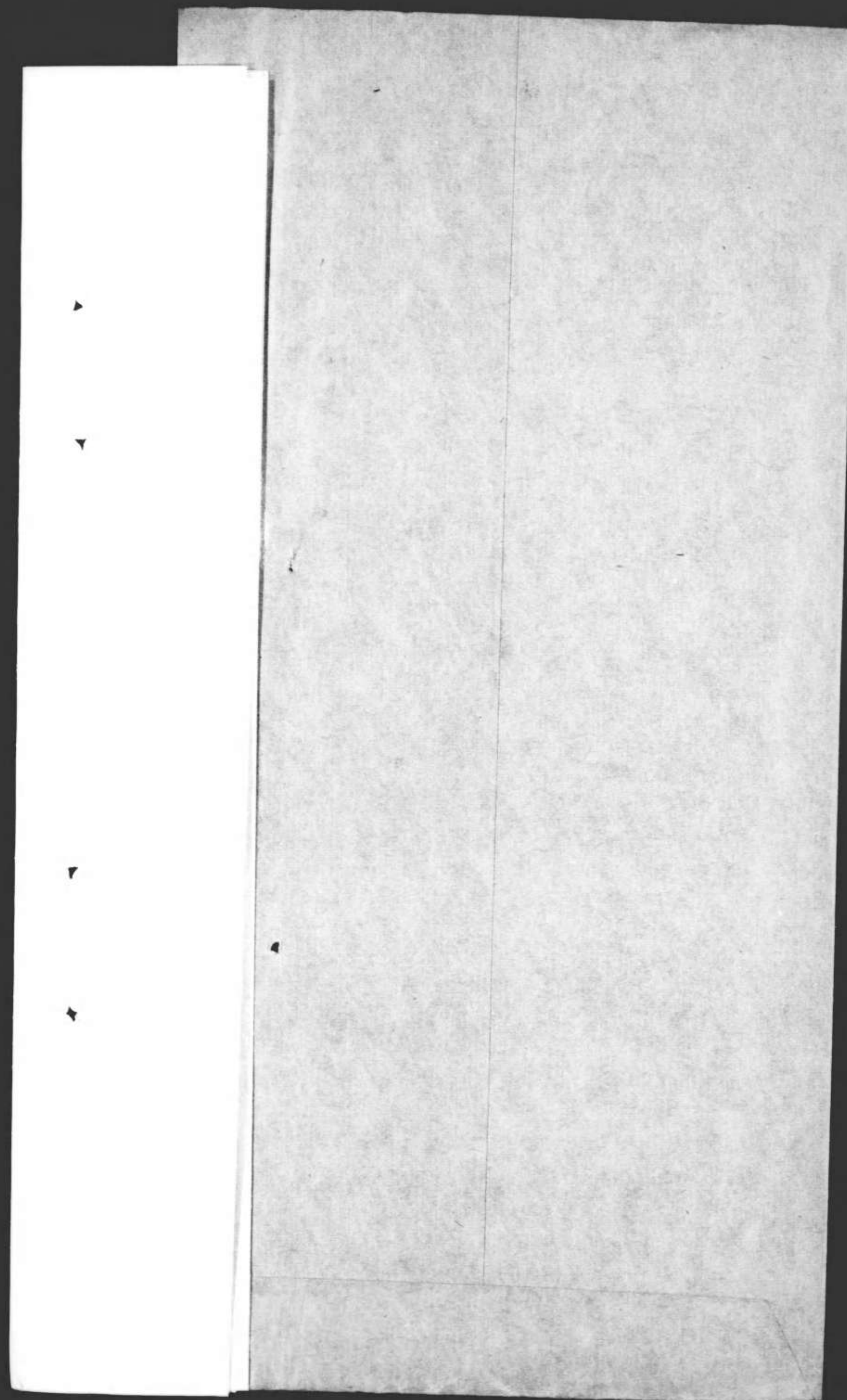
取締役社長工學博士高橋辰次郎



東北振興調查會長

內閣總理大臣岡田啓介閣下





大 株
湊 式
興 會
業 社
要 錄

附

大 湊 港ノ 概 要

封筒在中物

三、當新大湊埠頭設備及取扱業務

埋立及渡溪 田名部川筋海面 埋立地 沖出六四〇間 既面積約七〇、〇〇〇坪 埋立許可六七〇、一九九坪三四
埋立及渡溪 田名部川筋海面 埋立地 沖出六四〇間 既面積約七〇、〇〇〇坪 埋立許可六七〇、一九九坪三四
渡溪水路 長六六〇間 水深一面一八尺以上 干満ノ二万至二尺五
船岸壁 船岸壁付 岸壁九五間 一、五〇〇屯級ノ船數隻ヲ繋留シ得
物 場 公用三〇間 一ヶ所 岸壁ノ上流ニ在リ
請願側線 約壹哩 埠頭ヨリ省線大湊鐵道ニ連結シ、大湊驛トノ間
埠頭倉庫 上屋式倉庫 間口一八間 奥行四間 壹棟 總坪二五六坪
貨物ホーム 倉庫ノ後方ニ 六〇間 沿アテ 冷蔵及製氷工場ニ 六二間
船舶給水 簡易水道ニ 船舶給水栓 木造岸壁前 貳個 壹時間ノ給水貳〇屯
取扱業務 一、新大湊埠頭 聯絡 船車荷役業務 室蘭、函館其他諸港トノ各航線
一、大湊驛前並新大湊埠頭ト大湊鐵道トヲ連結セル 用臨港線ニヨル一般運輸業
一、船舶給水、倉庫、貯炭、貨地及貸家
一、其他定款ニヨル業務

四、全埠頭利用ノ事業一般

新大湊埠頭ハ當會社ノ專用トシテ前記船車連絡設備ヲ以テ大正十二年十一月一般荷役業ノ開始以來毎年出入
スル船舶數百隻、五万屯内外、主トシテ石炭、木材、魚類、雜貨ヲ集散セリ當社以外ノ主ナル利用者左ノ如シ

鐵道 省 貯炭場一、二〇〇坪 仙台鐵道局 青森倉庫大湊詰所 大正十二年以來毎年三萬餘内外ノ石炭ヲ陸揚
揚グ東北本線ニ供給シ、向鐵材、木材其他大量貨物ハ當埠頭ヲ利用セラル

三菱礦業株式會社 右鐵道納炭ノ爲ニスル大湊出張員詰所 當社假事務所附近ニ在リ 納炭詰所 青森倉庫大湊詰所
大湊水電株式會社 大畑正津川發電所ノ水電二千キロ、第一期電力七百キロヲ有シテ當社事業地ニ配給セリ

十和田水電株式會社 本社變電所ハ當社假事務所附近ニ在リ
大湊冷蔵株式會社 日魯、大日本製氷、大倉、大湊水電ト當社トヲ大株主トスル

全社製氷工場 桁行六二間 總建七四四坪 製氷、貯氷、冷凍 六〇馬力 原動機三臺
電話大湊八番 軒高一五尺 冷蔵、準備ノ各室 製氷冷蔵能力一〇〇噸
冷蔵室 五四坪ツ、四室 四八坪ツ、四室 三六坪ツ、二室 一六坪ツ、二室 收容量二、五〇〇噸 碎氷並 其船積裝置 貳ヶ所

ニシテ主トシテ日魯會社一、八〇〇噸内外ノ 榛名、秩父、豐光、大光、ノ冷蔵船ニヨリ「カムサツカ」ヨリ冷凍
魚ヲ輸入セラレ冷蔵貨車ニヨリ全國各地ニ送ラレ又、製氷ハ北洋往船ノ積込其他へ輸送セラル而シテ地方的ニ
モ年毎ニ冷蔵及製氷ノ需要増加ヲ見ル

全工場前ハ「ラルセル式」シートバイル 繫船岸壁九五間ニシテ全工場ノ後ハ臨港鐵道延張セラレ貨物ホームヲ有
セリ
倉庫及諸工場ノ企畫
當社有地ノ廣大且ツ海陸連絡ノ便宜ニヨリ、倉庫及諸工場ヲ建設スヘク從來屢々企畫セラレタル製材、製紙、
人糞、製肥、セメント、造船所等漸次其ノ實現ヲ見ルヘクシテ從テ特別貿易港トシテ保税地域ノ設置及滿洲新
帝國ノ建設北鮮港ヲ直通スル指定港タルコト等部下各町村並當會社ヨリ之レカ出願中ニ屬ス

五、主ナル建設物

種目	数量	價格	備考
土地	一、三七〇、〇〇〇坪	八六八、六七五	大正七年十二月以降買收
埋立權利及全成功地	六七〇、一九九坪三〇〇坪	八〇二、五七五	田名部、大湊兩町ノ區域ニ涉リ大湊灣ヲ廻リテ延長二里半ニ及ビ、地帯内ニ田名部、大湊兩町アリ又地内約百方本ノ立木ヲ有シテ植栽積三十年以上ノモノ多キニ居ル
住宅及旅館	一九棟	一五九、九五九	自大正八年建築
倉庫	四棟	二六、二八一	全
電機	電機唧筒式 船体鋼製 長一〇〇呎 深八〇呎	二六〇、七四〇	石川島造船所 大正十年九月製造
汽船	壹隻 船長五五尺三寸 深六尺六寸 汽機及汽機一式	二二、五五五	大正十年十月購入
汽船	壹隻 船長五五尺三寸 深六尺六寸 汽機及汽機一式	二七、六一〇	大正十二年十月落成
木造岸壁	長五〇間 兩端各七間	二七、六一〇	落成

六、會社ノ設立經過

當會社ハ故常務取締役鈴木誠作氏ノ開港創意ニヨル設立ニ係レリ、氏ハ舊米澤藩士明治廿四年帝大政治科出身ノ法學士ナリ、夙ニ東北地方ノ産業振ハス文化ノ進歩亦西南ニ偏シテ、國內殆ント半身不隨ノ狀態ニアルヲ慨シ其根元スル所明治維新ニ際シ東北地方ノ政治的劣敗者タリシニ存スルモ、必竟適當ナル開港場ヲ有セサルハ最大原因ナリトシ日常コレカ實現ニ努メテ調査ヲ怠ラサルコト多年、明治四十二年全郷ノ親友上泉海軍中將力任ニ大湊ニ赴クヲ見送り其本志ヲ語リテ囑スルニ東北地方ノ港灣調査ヲ以テセリ、翌四十二年全中

小 蒸 汽 船	壹隻 船長一七米五三 深一四米八六	二二、九五九	船体及機關共 函館船渠會社製造
大 船	四隻 各巾一五尺 深三尺七五	一八、四八九	大正九年十月新造各三〇噸積甲板張
火 電	米國ウエスチンクハウス機 五〇〇キロ	一八六、〇六三	大正十年二月認可 休業中
簡 水 道	二、六六四間	四五、二五五	大正十一年十月完成
鐵道請願側線	炭礦區採一、〇四〇坪 試三、六三五、一〇〇坪(五日)	二八、九六一	大正十一年十月完成
貯 藏 品	砂鐵礦區六、三四六、三〇〇坪(二日)	三〇〇、〇〇〇	官設大湊鐵道ニ連結ス

將カ世界交通ノ大動脈タルヘキ津輕海峡ニ面セル大湊港ハ實ニ其使命ヲ有セルモノタルヲ斷シ該港ヲ絶叫セラル、ニ至リテ、鈴木氏ハ始メテ實地ノ踏査ヲ遂ケ痛ク其意ヲ得タルヲ悦ビ乃チ下北郡全町村民ヲ一團トスル既設大湊鐵道期成同盟會ヲ大湊開港同盟會ニ改メテ氏自ラ其ノ主幹トナリ之レニ關スル意見ヲ發表シタリ、是ニ於テカ朝野ノ輿論翕然トシテ集リ明治四十四年帝國議會ハ大湊ノ開港ヲ政府ニ建議シ、政府ハ其設備ヲ有スルニ至ラハ開港ニ躊躇セストシ、又軍事當局ハ開港ノ爲ニハ要港一都ノ開放ニ吝ナラストノ言明アリ又、地元ノ住民所要ノ土地提供ヲ決意シタルヲ以テ鈴木氏ハ先ツ大湊ニ至ルノ官設鐵道ノ敷設ヲ運動スルト共ニ外ハ露、米、滿、蒙、支那及南洋トノ交通、内ハ内地ト北海道方面トノ關係等周密ナル調査ヲ累ネ又大湊地方ニ於ケル、海產、農業、各種ノ木材、石灰、粘土、砂鐵、金銀銅等ノ天產物ハ勿論水利水電尙モ地方開發ニ資スヘキモノハ細大其ノ手ノ研究ヲ經、爾來拾數年、機愈熟シテ大正七年六月十五日ヲ以テ大湊開港施設ノ爲當會社ノ設立ヲ見、爾來着々開港準備ノ施設ニ任シ官憲又直接間接ニ多大ノ補助ヲ與ヘラレ乃チ帝室林野局ハ港灣附屬地タルヘキ御料地約五百町歩ヲ拂下シ許可シ

鐵道省ハ大湊鐵道ノ布設ハ勿論新大湊埠頭上貯炭場ヲ設ケ省用石灰其他木材、鐵材等大量貨物ノ集散ニ任シ
青森縣ハ大湊沿岸貳里半ニ涉リテ海面埋立約七拾萬坪ヲ許可セラレ尙社有地ヲ縱橫貫通スル拾間巾道路ヲ新設セラレ前途ノ多望ヲ以テ漸次大湊港ノ眞價ヲ發揮スルニ至レリ、然リ而シテ世界大戰後ノ經濟恢復ノ大商戰ニ遭遇スルヤ各國競フテ自由港ノ設置ヲ喧傳且ツ實行トナリ我邦亦熱心ナル研究ヲ出シ曩キニ我カ經濟界ノ泰斗、法學博士河津進氏大湊自由港論ヲ主唱シ、次イテ自由港研究ノ實際的權威者商工省囑託野波靜雄氏、親シク來湊シテ太平洋商航路ノ幹線津輕海峡ニ面セル大湊カ東北唯一ノ自由港タルヘキ有資格ヲ斷言シタリ、往昔坂上田村將軍奥州ニ來リテ壺ノ碑ヲ建テ大日本中央ノ四字ヲ題セリ爾後千五百年ノ後幕末北海警衛ノ事急ナルニ及ヒ、奉行羽太安藝守正義巡視シ來ツテ曰ク、コノ地ヨリ西南九州ニ至ル凡六百里西北唐太ニ至ル凡六百里、東北勸察加ニ至ル凡六百里真ニ大日本ノ中央ト謂フヘシト乃チ地方南部藩ヨリ收メテ幕府ノ直轄タラシメントシタルコトアリキ、明治二十三、四年ノ頃海軍水路部長肝付兼行中將揚言シテ謂ヘラタ大湊ハ軍港トシテ且商港タルヘシト爾來、數年ノ后海軍要港トシテ水雷團ノ設置トナリ要港部トナ

リ北洋方面ハ勿論、太平洋ノ警備ニ任シ近ク城ヶ澤嶺山兩飛行場ノ完成ヲ見ルヘク、殊ニ滿洲新帝國ノ現出ト共ニ日本海航路ノ世界ノ躍出ヲ完カラシムヘク、實ニ大湊ノ使命、古往今來重且大ト謂ハサルヘカラス、必竟大湊ハ天ノ時地ノ利又人ノ和アリタルハ勿論ナリト雖、故鈴木氏カ國內半身不隨ノ狀勢ヲ慨シ之ヲ解決スヘキ東北振興ノ第一策源ハ適當ナル開港場ヲ得ルニ在リトシ、數十年間熱中調査ノ極、遂ニ大湊開港ノ急務ニ着眼シ、大湊狂ヲ以テ目サレタル熱心努力、而モ高潔ニシテ清廉、一意國家的見地ノ外、一点ノ私心ヲ挾マス、從テ氏ノ周圍ハ温情アル先輩、情義ニ富メル友人、義俠ナル知己ニ滿タレ、地方ノ民衆共ニ相一致シテ國民利福ニ戮力、其ノ志ヲ致セルノ結果ハ乃チ當會社ノ今日アル所以ニシテ、政府當局、地方官憲亦大ニ庇蔭セラル、所アリ、只遺憾ナカラ氏カ昭和五年三月遂ニ遠逝セラレ、又會社現在ノ設備トシテハ未タ所期ノ什一二過キスト雖、現當事者ハ克ク競々トシテ推歩經營、財界恐慌ノ裡ニモ其ノ決意ヲ撓マス、倦マス只管社業ノ基礎充實ニ專念シテ其ノ光明ノ彼岸ニ到達センコト、聖代ノ恩澤決シテ遠キニアラサルヘシ

附記

一、概況

大湊港ノ概要

【位置】本州ノ北端、青森縣下北半島(下北郡)ニ抱擁セラレ、陸奥内海ニ南面シ、省線大湊線ノ終点ニ在リ、上野驛ヲ距ル七五二軒、青森驛ヲ距ル一〇二軒、東北本線ノ分岐点野邊地驛ヲ距ル五八軒、海路青森ニ至ル三四哩、函館ニ至ル六五哩、室蘭ニ至ル一〇〇哩トス

【形状】南方約九十度ヲ除キテ、三面山ニ圍マレ、殊ニ冬季ノ西北風ヲ防クカ爲ニハ釜臥、恐、朝日向其他ノ諸山北西ニ連亘セルカ故ニ海面四時靜謐ナリ、又冬季ノ吹雪、夏時ノ浪務殆ント其ノ虞ナシ

【出入】港内入口ヲ大ニシテ港奥ヲ狭メ、大体喇叭狀ヲ成シ港口、沿岸共ニ全部砂ヲ以テ築カレ毫末モ暗礁ノ恐ルヘキモノナク、出入及投錨尤確カナリ、水深ハ岸ヲ距ル五拾間内外ニシテ五尋ニ滿テ、五尋以上ニ達シ、廣袤三〇町亦本邦中ニ比スヘキナク、最、大船巨舶ヲ容ル、ニ適ス、而シテ海軍要港部ハ當港ノ一角宇田灣ニ在リ

【環境】四周廣闊平坦、土地卑濕ナラス、土質脆弱ナラス船渠、諸工場、大都市ノ建設ニ適シ且ツ水利ニ富ミ、亦土砂、石材、粘土、石灰、石炭、木材等ノ諸原料ニ乏シカラズ、動力トシテ阿都城發電、大湊電燈、大湊水電並社有火力發電所アリ又十和田水電ノ成ルニ至ラハ尤充分ナルヘシ、氣候ハ溫和ニシテ用水其絶好豐富ナルヲ以テ尤衛生ニ適シ、風向ハ西ヲ常風トシ、冬季ノ積雪二尺以内、概シテ雨雪ノ少キ地方トシ、又震災ノアリタルコトナシ、然リ而シテ世界交通ノ大道タル津輕海峡ノ要衝タル其價值尤大ナルヘシ

二、沿革

【大湊ノ名稱】舊名「安渡」港ト云フ、古昔坂上田村將軍ノ蝦夷戰定、藤氏、安東氏ノ盤據、南部八戸家ノ領有尋テ南朝ノ皇裔及其遺臣ノ城地タリ、元和元年南部藩(盛岡)領トシテ其ノ寶庫タリシコト殆ント二百六十年、明治維新斗南藩ニ至リテ之ヲ本邦唯一ノ長崎交易港ニ比シ、尙「ヨリ以上」ノ良港トシテ「大湊」ト改メ、爾來天威ノ良港「大湊」

ノ名ヲ致セリ

【南部藩時代】常ニ江戸、大阪、中國ハ勿論北陸、兩羽各地ノ商船ヲ出入シ、又所謂北國船ノ冬團地、又東北各地ヨリスル北海道出稼人夫ノ集散地タリ、殊ニ南部藩長崎交易品ノ貯藏且吐吞港ナルト又北海道トノ國道筋ニ當ルヲ以テ、常ニ公儀役人及長崎商人ヲ徂徠シ、慶應年間交易品ノ請負制度ヲ廢止シ藩直營タルニ及ビテ、藩有蒸汽船ノ入港ヲ見、明治戊辰ノ變ニハ官艦長陽ノ入港ヲ見タリ

【軍艦ノ出入】航海及諸地ノ安全、水陸聯絡ノ便宜、用水ノ絶好豐富ヲ以テ明治十年佛國軍艦入港ハ明治十四年九月、東北、北海道ノ御巡幸ニ際シテ地方御代巡北白川宮殿下御搭乗ノ日進艦力入港シ、翌十五年伊國軍艦皇孫殿下ノ座乗ヲ以テ約三ヶ月間滯泊シ、爾來英、佛、魯、米ノ各國軍艦常ニ出入シ、殊ニ英國東洋艦隊ノ如キハ毎年夏時北海道往返ノ途次堂々舳舳相踵ミテ寄港滯泊シ傍ヲ給水ヲ得タリシ

【要港及要塞地帯ノ關係】明治二十七八年日清戰役後ニ於テ海軍御用地ノ御買上アリ、大湊ノ内宇田邑ノ如キハ全部取拂ハレ海軍防禦營造物ノ築造成ルト共ニ明治三十三年要港及要塞地帯法ノ施行トナリ尋テ全三十五年八月、大湊水雷團ノ開設トナリ全三十七八年日露戰役ニ於テ樺太占領軍タル、第三第四ノ兩艦隊ノ假根據地トナリ、全年末、要港部ニ擴張セラレ、爾來北海警備ノ重任ヲ加フルヲ見タリ

【鐵道ノ開通】要港部ノ要港ニ見ルヤ、地方ニ於テモ、從來ノ歴史ト天與ノ形勢トニ鑑ミ、鐵道敷設ノ急アルヲ認メ、郡内ノ一致ヲ以テ大湊鐵道期成同盟會ヲ組織シ、之ヲ政府及帝國議會ニ請願スルコト連年、帝國議會モ建議スル所アリ、大正四年政府豫算ノ計上ヲ見大正五年ニ至リテ開港ノ前提タル官設大湊鐵道ハ起工セラレ、全十年九月大湊線ノ全通ヲ見タリ

【開港ノ提議】明治四十三年下北全町村民ヨリ成ル大湊開港期成同盟會ハ大湊要港部司令官上泉海軍中將閣下並鈴木誠作氏ノ指導ノ下大湊ノ開港ヲ請願シテ朝野輿論ノ一致スル所、全年六月市瀬内務技師ノ實査アリ、全四十四年第二十七回帝國議會ハ之ヲ建議ヲ成立スルト共ニ地元人民ハ開港ニ要スル土地提供ヲ一決シ尋テ鐵道院技師長尾平氏ノ實査アリ、翌四十五年七月東京新聞記者團一行二十餘名、朝日、萬朝、日本、太陽、中外商業、中央、國民、大和、報知、日々、讀賣、二六、時事、實業之日本、電通、海國、都、其他ノ

大湊視察アリ、又青森縣會並東北六縣北海道ノ道縣會役員聯合會モ屢々建議セラレタリ、大正二年要港部司令官内閣下ハ地方ノ開拓國防上ノ見地ヨリ大湊鐵道ハ之レヲ大開港迄延長シテ北海道トニ聯絡スヘク、又内海大湊ト海峽大間トノ呼應ヲ唱ヘラレ、更ニ鈴木氏ハ南洋視察ヲ企テ大正四年一月先ヅ大連ヲ登シテ青島ニ赴キ、濟南、南京、上海、香港ヲ經テ彼南ニ上陸シ、新嘉坡ニ出テ馬來、フィリッピン其他ノ諸島ヲ見テ再ヒ香港ニ上陸シ北上シテ廣東上海一帶ノ地方ニ至リ更ニ滿洲ヲ巡リテ歸京セルコト殆ンド半歲益自己所見ノ註ヲサリシヲ確信シ翌五年野村龍太郎博士ノ大湊視察全六ヶ年佐々木慎四郎氏、犬塚信太郎氏ノ來湊アリ全シク内務技監近藤虎五郎博士ノ視察アリ、然リ而シテ大湊開港ノ諸施設一ニ政府ノ手ニ待ツノ由ナカリシカ爲、私設會社ヲ起シテ十和田水電ヲモ併セテ經營スヘク總資二千乃至三千万圓ヲ豫定シタルカ電力ノ調査力相當ノ月子ヲ要スルヲ以テ是ハ別箇ノ會社タラシムヘク、乃チ大湊興業株式會社ハ總資本八百萬圓トシ

- 一、米國商船ノ中繼港タルコト
- 二、對露貿易ノ基地タルコト
- 三、東北六縣ノ海外貿易港タルコト
- 四、本州及北海道トノ聯絡基地タルコト
- 五、北海道及樺太ノ石炭集積地タルコト
- 六、東北工業ノ中心タルコト

以上ノ目標ノ下開港施設ニ任スヘク、地元ハ勿論東北六縣、北海道、東京、大阪、神戸其他各地ニ涉リテ、株式ノ應募ヲ得、大正七年六月十五日野村龍太郎博士ヲ社長トシ、鈴木誠作氏、犬塚信太郎氏、石丸重義氏、門野重九郎氏、五代龍作氏、楠川良作氏ヲ取締役ニ、佐々木慎四郎氏、香坂駒太郎氏、湯河元臣氏、野村理三郎氏ヲ監查役トスル全社ヲ創立シタリ、爾來先ヅ諸般ノ準備ヲ整ヘ、埋立及港灣修築等々其ノ歩ヲ進メ、幸ニ中央及地方官憲ノ熱段ナル庇護恩典ヲ蒙リ、差向キ石炭、木材、鮮魚ノ三大市場タラシムヘク努力シ、茲テ大正十年八月再、東京新聞記者團二十余名ノ視察アリ、翌大正十一年三月第四十五回帝國議會ハ再ヒ大湊ノ開港ヲ建議シ大正十二年六月要港一都ノ開港

トナリテ、船舶ノ出入其ノ便宜ヲ増シ全年七月港灣修築ノ權威廣井勇博士ノ視察、全年八月内務大臣水野鍊太郎閣下並床次前全大臣ノ御巡視アリ、大正十三年六月東北六縣、北海道ノ道縣會役員聯合會ハ大湊兵器製造所ノ設置ヲ政府ニ陳情シ、爾后石丸、中川、佐竹ノ各鐵道次官元田前鐵道大臣、安達通信大臣、川村前台灣總督其他河村尊雄氏、野波靜雄氏、北大教授倉塚良夫博士、拓殖大學滿川龜太郎教授港灣協會安藝杏博士其他朝野名士ノ來往數フルニ迫ナカリシ、

然リ而シテ昭和八年三月第六拾四回帝國議會ハ港灣設備、船車ノ聯絡、港灣附屬地ノ廣大ニ鑑ミ、三タヒ「大湊ノ開港ヲ議決シ併セテ保税地域ノ設定兼ネテ滿洲國ノ建設ニ伴フ北鮮、内地間ノ直通指定港タルヘキ等」之レヲ政府ニ建議シタリ、地元大湊町ハ大湊驛前海面ニ船溜ヲ築設シテ近ク竣工ヲ見ルヘシトス、

要スルニ大湊ハ天成ノ良港且ツ古來幾多ノ由緒地タリト雖、現時著シキ榮光ヲ致セル所以ノモノ、

一ハ海軍要港トシテ儼然防禦營造物ヲ設置シ近時更ニ城ヶ澤、飛行場ノ最大權威ヲ加ヘ、

一ハ大湊鐵道線ニヨリテ海陸聯絡ノ便アルニ基ケリ、

地方ハモト北海道交通ノ國道幹線又田村將軍ノ所謂大日本國中央ニ位置セルモノ、歴史ハ更ニ之ヲ繰返ストセハ乃チ近ク大湊鐵道ヲ延長シテ大間鐵道成リ、樺山飛行場ノ建設ヲ了ルトセハ上野、札幌間直通幹線タルヘキノミナラス、大湊ニ於ケル産業及軍事ノ任務ヲ倍蓰スルト共ニ内海大湊要港ト海峽大間要塞トカ呼應シテ、北門ノ警備益緊密ヲ加ヘラレ幾年肝付、上泉、柄内ノ各將軍力呼号セラレタル、大湊力軍港ニシテ且ツ商港タルヘシトノ實ヲ擧グルノ日遠キニアラサルヘク、乃チ軍事國防ト經濟國防トニ於テ、亦往昔ヨリ民衆克ク順逆ヲ辨ヘ其節ヲ屈セサルモノアル、歴々史跡ノ徵スル所、民俗醇厚忠實、日常一致淳屬シ、協力振作シテ、只管、報効ニ専念セルモノ、思想國防ニ於テモ咸ナ、天賦ノ地タルヲ信シ得ヘシ、

大湊ホテル（電話大湊二三番） 経営者 仙臺ホテル 大泉立治郎 田名部町大字全
宇川尻四番地

一、構 造 セセツション折衷式、佛國形赤色瓦葺（間口十六間半、奥行十五間、高四〇尺）

二、設 備 總二階 三一九坪 客室（室毎ニ二ノ間若クハ三ノ間ヲ付ス 此室數（五七））
食堂、撞球場、浴室（貳） 理髮室等

三、位 置 田名部町ノ中間、通稱「三本松」（社有都市計畫地）ニ巍然聳立シ
「靈山恐」ノ連峯タル「釜臥山」ト天然ノ良港「大湊」灣トヲ望ミ風光明媚、眺望雄大、山海ノ遊樂ニ富ミ、
夏涼、冬暖、磯遊、貝拾ヒ、海水浴、野掛、摘菜、茸狩、狩獵、スキー等實ニ遊樂自適ト謂フヘシ、
スロープハ附近到ル處ノ丘陵ニ在リ（要港部スロープハ）又大朝市「白鳥」ノ名所ナリ

四、宿 料 一泊 貳圓乃至參圓、御晝 壹圓乃至壹圓五拾錢、和洋御好次第 宴會其他ノ會合御引受ク

社 旅 館 大湊ホテル（電話大湊二三番） 経営者 仙臺ホテル 大泉立治郎 田名部町大字全
宇川尻四番地

昭和九年五月

封筒在中物

裏面白紙

大興業株式會社京都市港灣計畫圖

